

「神経内科」？－正しい理解のために－

神経内科部長 本間 温



「神経内科」と聞いて、どのような病気の患者さんを診療する科なのか、すぐに想像できる方は少ないでしょう。心療内科や精神科と紛らわしい名称ですし、実際に良く混同されます。そこで、神経内科について誤解を解き、理解を深めていただくために、少し紹介させていただきます。

対象となる病気で患者さんの数が最も多いのは脳卒中です。脳卒中は未だに日本人の死因の第3位を占めています。中でも脳梗塞が最多で、脳出血が激減してきたのに対して、増加しています。

脳梗塞は、高血圧や糖尿病等の動脈硬化を引き起こす病気や不整脈が原因（危険因子）となって起きるため、高齢者の増加に比例して、患者数も増加傾向です。脳卒中は病変が起きた場所により、脳の様々な機能が失われ、何らかの障害が遺り、後遺症として生涯その患者さんを悩ませます。そして、寝たきりの原因の第1位にもなっています。近年、発症から間もなく病院を受診すれば、詰まった血栓を溶かしたり（血栓溶解療法）、機械的に取

り除いたりする治療が保険で受けられるようになりました。当院でも血栓溶解療法に力を入れており、積極的に行っています。しかし、その恩恵にあずかれる人は限定され、出血による生命の危機と隣り合わせの治療でもあり、危険を伴うことがあります。ですから、危険因子を早期に発見して治療し、脳卒中にならないように予防することが大切です。そもそも危険因子のような病気に罹らないことが、脳卒中の根本的な予防になります。

当院は神経内科だけで年間300人強の脳卒中患者さんを診療しており、年々その数は増えています。このことは憂慮すべきことですが、それだけ診療経験が豊富であるということもできます。

その他、髄膜炎、脳炎、認知症、てんかん、いわゆる神経難病（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症等）等、一度は耳にしたことがある病気が対象になります。共通している症状として多いのは、頭痛・めまい・しびれであり、こちらの方がピンとくるという人が多いかもしれません。体の一部がうまく動かない、勝手に動いてしまうといった症状やしゃべりづらい、言葉が出ないといった言語障害も神経内科の病気の特徴です。これらの症状のいずれかに思い当たるようでしたら、神経内科を受診することをお勧めします。

以上、神経内科を理解していただく一助になれば幸いです。



公立昭和病院小児科の診療活動

小児科部長 小鍛治 雅之



公立昭和病院小児科は、小平市、小金井市、東村山市、東久留米市、清瀬市、東大和市、武蔵村山市、西東京市、の8市の地域医療の基幹病院として、スタッフ13名を擁して、一般小児23床、病的新生児（NICU/GCU）15床の計38床を運営しています。

外来診療は、午前の一般外来の他に、午後には主に当院で出生し、入院された児を対象とした乳児健診、フォローアップ健診及び予防接種外来や、循環器、神経、内分泌代謝、腎臓、アレルギーなどの専門外来（一般外来受診後の予約制）を設け、幅広い小児の診療を行っています。特に近年のアレルギー患者の増加に対応して、今年度からアレルギー外来を毎日行うことにしました（完全予約制）。



小平市受託の病後児保育施設の往診も毎日行っています。

救急外来は24時間体制ですが、小平市に設置された応急診療所との連携が充実していることもあり（例えば、当院では冬季のインフルエンザウイルス迅速検査は行っていませんが、その代わりに応急診療所で行ってもらっています。）軽症の患者さんは、まず応急診療所を受診することで救急外来に殺到するのを防ぐことができ、結果として余裕をもって救急診療を行えていることに感謝しています。

入院患者の多くは呼吸器感染症、消化器感

染症、尿路感染症、などの感染症ですが、それ以外にも、熱性痙攣やてんかんなどの神経疾患、アレルギー疾患、腎疾患、川崎病など多岐にわたっており、その他にも食物負荷試験や内分泌負荷試験など、そして外科、脳外科、整形外科、耳鼻科、泌尿器科などの外科系疾患の入院も受け入れています。

近年は、虐待の疑いのある小児の緊急入院もあり、当院のソーシャルワーカーや地域の児童相談所との連携が大変重要になっています。

NICU/GCUは低出生体重児（在胎28週以降、体重1,000g以上）、呼吸障害、細菌感染症、消化器疾患、黄疸、などですが、入院に関しては当院産婦人科との連携の下、地域からの母体搬送を大原則としていますが、時に新生児搬送も受け入れています。

当院は、日本小児科学会専門医研修施設と日本アレルギー学会認定教育施設の2つの学会認定施設の資格を有しています。

スタッフは、日本小児科学会をはじめ、各種学会にも積極的に参加・発表し、小児医療の充実のための研鑽に努めています。

また、国立成育医療センターや都立小児総合医療センターで研修してきたスタッフが増えたため、重症で高度な治療を要する場合の協力要請が容易になりました。

診療をするうえで重要なことは安全・安心な医療をご提供することであり、そのためにはご家族の心配や不安にお応えし、丁寧でわかりやすいご説明を心がけています。

これからも、8市の小児科の開業医の先生方との連携を充実させながら地域医療に全力で取り組み、地域の子供達の心身の安寧と健康増進に努めて参りたいと思います。

どうかよろしくお願いいたします。

「第8回 市民公開講座」のご案内

今回の市民公開講座は、「がんの化学療法について」当院のがん化学療法看護認定看護師・がん薬物療法認定薬剤師が講演を行います。

事前のお申し込みは不要ですので、お気軽にご参加ください。



日 時：9月1日（土） 14時～15時30分

場 所：公立昭和病院 本館2階 講堂

内 容：がんの化学療法について

お問い合わせ先：公立昭和病院 医事課

042-461-0052

（内線2170）

小学生のための医療体験を開催しました

～ ブラック・ジャックセミナー ～

さる3月25日（日）に当院でも初めての体験となる、小学生のための医療体験～ブラック・ジャックセミナー～を開催いたしました。普段外来などで見る病院とは違い、実際に医師たちがどんなことをしているのか、最新の医療ではどんな技術が導入されているのか、そんなことをじかに体験していただく企画です。企業のバックアップを受け、今回は外科系の手技を中心にプログラムを立てました。小平市、東大和市、東村山市、武蔵村山市の4市の教育委員会を通じて小学校新5・6年



生を対象に参加募集を行い、25人の未来の医師に集まっていただきました。少し驚いたことは、何と23人が女子ということ。ここにも女性の時代が来ているのかと感じました。最後の解散式では記念写真や未来の医師認定書を受け取り、皆満足の笑顔でした。次回は、人数の関係で今回お声をかけられなかった西東京市、小金井市、東久留米市、清瀬市の小学生を対象に企画していきたいと考えています。

（外科・消化器外科担当部長 山口 浩和）



臨床工学室のご紹介

臨床工学技士は、昭和62年に新しく制定された医療専門職です。市民の方にはまだ認知度が低いかもしれませんが、厚生労働大臣の免許を受けて「医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作および保守点検を行うことを業とするもの」です。

『生命維持管理装置』とは、呼吸や循環、代謝などの、人が生きていくために大切な機能を代行したり、補助したりする医療機器をいいます。皆様をご存知の装置としては、呼吸の補助をする「人工呼吸器」、腎臓の働きを代行する「人工透析装置」などがあります。

▶ 外来でのペースメーカーチェックの様子



当院の臨床工学室には、部長1名、臨床工学技士10名が在籍しております。手術室や救命救急センター、人工透析室などに常駐し生命維持管理装置の操作を行っています。また、最近では高齢化を迎え需要が大きくなった心臓ペースメーカーの、安全な使用状態の維持も臨床工学技士の業務となってきました。



◀ 人工透析中の臨床工学技士

臨床工学技士は医療機器の専門職ですので生命維持管理装置だけでなく、病棟などで一般に使用される輸液ポンプ、手術室で使われる電気メスや麻酔器等多岐にわたった医療機器の保守管理を行っています。現在、私達が管理している医療機器は、15種類600台以上になります。万一、病院に来られるようなことがありましたら、院内で使用されているいろいろな機器に注意してみてください。点滴棒についている四角い機械（輸液ポンプ）、エレベータ横のAEDなど、これらの機器の保守管理や、使用方法の周知なども臨床工学技士が行っています。

当院の『急性期の高度医療を提供する』という方針の中で、このような生命維持管理装置をはじめとする多くの医療機器の保守点検・操作は、必要不可欠な仕事になります。多種多様な医療機器が病院内に溢れる中、臨床工学室では医師、看護師、他の医療職スタッフと連携し、医療機器を通して

“最善の医療の提供に努め、地域から信頼される病院”を目指しています。

住居表示変更のお知らせ

平成24年10月1日～ 公立昭和病院の住居表示が変わります。
新住所は「小平市花小金井八丁目1番1号」です。なお、電話番号・FAX番号は変更ありません。